

平成 29 年 4 月 28 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査（平成 29 年 4 ～ 6 月期）

製造業を中心にやや上向くも、先行きは横ばい

上向き期待を含むも、全20業種が『横ばい』の見通し

年初からの円安や好調な国内自動車販売を受け、静岡県内の自動車部品製造業の収益環境は改善するなど、製造業の業況は上向いた。

今後は、為替動向やシリア・北朝鮮などの緊張を受けた輸出への悪影響が懸念されるが、人手不足対策として賃上げが見込まれることや、プレミアムフライデーなどの消費刺激策もあり、個人消費の下げ止まりに期待が集まる。

なお、業種ごとの 4 ～ 6 月期の業界景気見通しは、主要20業種すべて『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が2業種、『普通』が8業種、『低調』が9業種、『不調』が1業種の見通し。

調 査 項 目 業 種	業界景気	
	現 況 (1 ～ 3 月)	見 通 し (4 ～ 6 月)
製 茶	● → ●	● → ●
食 品 ・ 飲 料	● → ●	● → ●
家 庭 紙	● → ●	● → ●
産 業 用 紙	● → ●	● → ●
工 作 機 械	● → ●	● → ●
民生用電器部品	● → ●	● → ●
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	☂ → ☂	☂ → ☂
建 設	● → ●	● → ●
住 宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ → ○	○ → ○
外 食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リ ー ス	● → ●	● → ●
人 材 派 遣	○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 山崎 眞嗣
主席研究員 望月 毅

製造業を中心にやや上向くも、先行きは横ばい

家計収入の伸び悩みや将来に対する不安感の高まりから節約意識が強まり、大型小売店や食品スーパーなどでは売上高が前年比減少しており、個人消費は厳しい状況が続いた。一方、年初からの円安や好調な国内自動車販売を受け、静岡県内の自動車部品製造業の収益環境は改善するなど、製造業全般の業況は上向いた。

今後の見通しについては、為替動向やシリア・北朝鮮などの緊張を受けた輸出への悪影響が懸念されるが、人手不足対策として賃上げが見込まれることや、プレミアムフライデーなどの消費刺激策もあり、個人消費の下げ止まりに期待が集まる。総じて今後の県内産業景気は、若干の上向き期待を含みつつも横ばいが続く見通し。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現況（平成29年1～3月期）は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「工作機械」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「外食」「観光・レジャー」の8業種、『低調』が「住宅」など9業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回調査との比較では、『普通』が2業種増加、『低調』が2業種減少した。『低調』から『普通』へ上がったのは、ツナ缶が生産減から回復しつつあるのに加え、飲料缶の生産がコーヒー缶を中心に前年を+10%程度上回った「食品・飲料」と、登録車を中心に国内販売が好調に推移し、全国の自動車生産台数が前年を+10%近く上回り需要が増えた「自動車部品」の2業種。

(2) 業界景気の見通しについて

平成29年4～6月期の景気見通しは、全20業種が『横ばい』の見通しとなった。

このうち『順調』が続くとみられるのが、首都圏から多くの案件が見込まれる「情報サービス」と、製造業を中心に人手不足感が高まっている「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、内食志向による需要が底堅い「食品・飲料」、値上げが小幅にとどまり生産量が前年並みとなる「家庭紙」、中国や米国の需要が回復している「工作機械」、省エネ・高機能製品が下支えする「民生用電器部品」、国内販売において登録車が好調で軽自動車も底を打つとみられる「自動車部品」、物流関連などを中心に前年並みの受注が見込まれる「建設」、西部地区の大河ドラマ効果を見込む「外食」「観光・レジャー」の8業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、新茶需要が盛り上がり欠ける「製茶」、コスト増が懸念される「産業用紙」、需要の後押し材料が乏しい「住宅」、衣料品の低迷が懸念される「大型小売店」、店舗間の価格競争が激化する「食品スーパー」、新型車投入が一段落し、県内販売台数の伸びも一服する「自動車販売」、パソコンの低迷が続く「家電量販店」、ドライバー確保に苦戦する「運輸・倉庫」、企業の慎重な投資マインドを受けて伸び悩む「リース」の9業種。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、東南アジア向けの低迷が続くと予想される「二輪車部品」。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成26年			平成27年				平成28年				平成29年
四 半 期		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ (今回調査)
対象月(○は調査月)		4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③
業界景気の『現況』	(業種数)	好調 ☀	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
		順調 ○	1	1	2	1	2	3	2	2	2	2	2
		普通 ☹	5	5	4	4	3	5	7	7	7	7	6
		低調 ☁	13	13	13	13	13	11	10	10	10	10	11
		不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値		2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
業界景気の『見通し』	(業種数)	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		やや上昇 ↗	1	2	0	2	2	0	0	1	0	0	2
		横 ば い →	19	18	20	18	18	20	20	19	19	20	18
		やや下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（3月調査であれば1～3月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（3月調査であれば4～6月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成29年3月上旬

回答企業…県内主要20業種（250社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

平成 29 年 4 ～ 6 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (前1～3月期 対比伸び率)	売上高 (前1～3月期 対比伸び率)	生産量 (前年 同期比 率)	売上高 (前年 同期比 率)	操 業 度	需給 バ ラ ン ス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前1～3月期対比)	製品価格の動向 (前1～3月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁		—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	☉ → ☉		↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	☉ → ☉		→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁		→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☉ → ☉		→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.5
民生用電器部品	☉ → ☉		→	→	→	→	○	供給過剰	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	☉ → ☉		↘	↘	→	→	○	均 衡	適 正	↗	→	0.1～3.0
二輪車部品	☂ → ☂		↘	↘	→	→	◇	均 衡	適 正	↗	→	0.5～3.0
建設	☉ → ☉		—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	5.0～8.0
住宅	☁ → ☁		—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁		—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁		—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	☁ → ☁		—	↘	—	→	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁		—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁		—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○		—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	☉ → ☉		—	↗	—	→	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	☉ → ☉		—	↗	—	→	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁		—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○		—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非 常 に 過 少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増 加 ・ 上 昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ☉	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減 少 ・ 下 降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非 常 に 過 多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	静岡茶愛飲条例により、お茶を飲む機会が増えることに期待
製茶	  	(現況)・県内の製茶問屋の売上高は前年並みとなった模様。上級茶の需要は引き続き弱含みだったものの、3月に入り平年より気温が低めの日が続いたことが家庭需要を押し上げた。また、ドリンク用途も堅調に推移した。 (見通し)・県内の製茶問屋の売上は、前年並みの見通し。新茶シーズン到来も、近年は新茶需要が盛り上がりを欠くため、製茶問屋は仕入れに慎重になるとみられる。なお、昨年末に施行された小中学校を対象とした「静岡茶愛飲条例」により、今後、学校や家庭などで静岡茶を飲む機会が増えることが期待される。

業種	業界天気	食料缶生産は前年比増を見込むも、原材料価格の上昇に警戒
食品・飲料	  	(現況)・県内の食料缶生産量は、前年をわずかに上回った模様。主力のツナ缶は、生産減から回復しつつあるが前年をわずかに下回ったとみられるのに対し、飲料缶は、コーヒー缶を中心に低調だった前年を+10%程度上回った。 (見通し)・県内の食料缶生産量は、前年を+5%程度上回る見通し。主力のツナ缶は、内食志向による需要が底堅く前年並みで推移する見込み。魚価高に加え原油高を受けて資材価格も上昇するとみられ、収益の悪化が懸念される。飲料缶は、GWの日並びがよく、茶系飲料を中心に前年を上回る見込み。

業種	業界天気	ティッシュは円高で輸入品との競合を懸念
家庭紙	  	(現況)・県内の家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年並みだが、古紙価格や輸送費、燃料費などコストの上昇で、収益は減少。ティッシュの生産量も前年並みだが、輸入品がやや増加して競合が激化した。 (見通し)・県内の再生トイレ紙の生産量は、前年並みとなる見込み。大手に追随して中小も値上げに向かうが、小幅なものにとどまりそう。ティッシュの生産量は、前年並みとなる見通し。価格が低迷する中、円高傾向を受けて輸入品とのさらなる競合激化が懸念される。

業種	業界天気	コスト上昇から段ボール原紙は値上げの見通し
産業用紙	  	(現況)・県内の産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は、主力の加工食品向けなどの需要が堅調で、生産量は増加。ただし、コスト増により収益は悪化した。白板紙の生産量は前年並みとなった。 (見通し)・県内の産業用紙の生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙は、加工食品向けなどが引き続き伸びる見込み。原料古紙不足などによるコスト増に対応するため、値上げを表明している企業もある。白板紙は前年並みの見込み。コストは上昇しているが、製品価格への反映には時間がかかりそう。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	外需のけん引で前年実績は確保できる見通し
工作機械	  	(現 況)・全国および県内の受注額は、前年を+10%程度上回って推移した模様。内需は設備投資に勢いがなく、前年を下回って推移したが、外需は中国での受注が回復してきたことから、前年を+20%近く上回ったとみられる。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績並みか若干上回って推移する見通し。内需は引き続きものづくり補助金の効果が下支えするとみられ、外需はメインの中国需要がスマートフォン向けを中心に回復していることに加え、米国の積極的なインフラ投資動向にも期待が集まる。

業種	業界天気	冷蔵庫・洗濯機は高機能製品が下支えし前年並みの見通し
民生用電器部品	  	(現 況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、気温の低い日が続いたこともあり、低価格商品を中心に前年並みの出荷を記録した。冷蔵庫も引き続き大型タイプがけん引し、前年実績を上回って推移した。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年より減少するも例年並みは維持するとみられる。天候に大きく左右されるが、温暖化の影響からエアコンの利用地域が拡大しており、強気の生産計画を立てるメーカーが多い。冷蔵庫と洗濯機は、省エネ・高機能製品が下支えして前年並みは確保しそう。

業種	業界天気	登録車を中心に国内販売が堅調、県内生産量は前年比微増
自動車部品	  	(現 況)・全国の自動車生産台数は、前年を+10%弱程度上回った模様。登録車を中心に国内販売が好調だったことに加え、輸出もほぼ前年並みで推移した。県内部品メーカーの生産量は、前年実績を確保したとみられる。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。国内販売は、登録車の販売が堅調で、軽自動車市場も復調傾向にある。県内部品メーカーの生産量は、取扱い車種によって差があるものの、全体としては前年をやや上回って推移する見通し。

業種	業界天気	国内生産は前年を上回るも、県内生産量は前年並みの見通し
二輪車部品	  	(現 況)・全国の完成車生産台数は、前年を+10%程度上回った模様。他県の生産拠点では、国内向け原付バイクを中心に熊本地震の被災からの挽回生産が行われた。県内部品メーカーの生産量は、前年並みで推移したとみられる。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、熊本地震からの反動で、前年を上回って推移する見通しだが、生産水準は低い状況。輸出も、北米および欧州向けについては堅調な動きが期待される一方、東南アジア向けは低迷が予想される。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移する見通し。

 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	公共工事は前年の反動減大きく、民間は前年並み
建設	  	(現 況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。前年は年度末に公団の大型道路関連工事が集中しており、反動減となった。民間は、県内メーカーの本社ビルや駅前ビジネスホテルなどが着工となり、前年水準を確保した模様。 (見通し)・県内の公共工事契約額は、前年を下回る見通し。前年は大型道路の高架橋工事や小中学校の建替え工事で契約額が伸びていたが、その水準には届かないとみられる。民間は、物流関連の大型案件やこども園関連案件などが予定されており、前年並みは確保できる見通し。

業種	業界天気	持家は前年並みを確保、貸家は前年の反動受け冴えず
住宅	  	(現 況)・県内の持家新設着工戸数は、前年並みとなった模様。住宅ローン金利は低水準が続くも、将来に対する不安の高まりから消費者の購買意欲は盛り上がりを欠いた。貸家も、アパート建設ニーズが鈍く、前年を下回った模様。 (見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年並みとなる見通し。需要の後押し材料に乏しく、水準となる1千戸/月の着工戸数を下回ると想定される。貸家は、相続税対策で着工数が伸びた前年には及ばないとみられる。分譲も、中部の大型マンション着工の反動を受け、前年を下回る見通し。

業種	業界天気	百貨店、スーパーとも前年をやや下回る見通し
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、化粧品や宝飾品が好調だったが、主力の衣料品が低迷し、前年をやや下回った。スーパーは、衣料品や住関連品の売れ行きが振るわず、前年を割り込んで推移した。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回って推移する見通し。百貨店は、化粧品売場の改装効果が期待されるものの、引き続き衣料品の低迷が懸念され、前年をやや下回る見込み。スーパーも、消費者の低価格志向の強まりを受けて価格競争の激化が見込まれ、前年をやや下回る見通し。

業種	業界天気	節約志向が強まる中、店舗間競争が激化する見通し
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った模様。農産物は、昨年秋以降続いていた価格高騰が収まり底堅く推移したものの、水産物はイカやサケの価格急騰により落ち込んだ。また、高値が続く牛肉も買い控えられた。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回って推移する見通し。消費者の節約志向が強まる中、冷凍食品などを中心に店舗間の価格競争が激しさを増すとみられる。また、レジ打ち係などパート従業員を中心とした人手不足の深刻化により、人件費の上昇が懸念される。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	新型車投入少なく、登録車は伸びが一服、軽は弱含みが続く
自動車販売	  	(現 況)・県内の乗用車販売台数は、前年を+6%上回った。登録車は、昨夏改良のミニバンや昨冬発売のSUVが好調で、先進的な機能や外観がニーズを捉え前年を+13%上回った。軽自動車は、小型車との競合もあり前年を▲3%下回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年並みとなる見通し。3月以降は新型車の投入や既存車のフルモデルチェンジが一段落し、販売台数の伸びも一服するとみられる。軽自動車も、新型車の投入は限定的で、市場全体で弱含みが続く。ただし、ハイトワゴンは好調で、販売台数の底上げに期待が掛かる。

業種	業界天気	4Kテレビの需要拡大を背景に、前年をやや上回る見通し
家電量販店	  	(現 況)・県内の家電販売額は、前年をやや上回った模様。薄型テレビは、4Kテレビの価格下落に伴って需要が喚起され、前年を+10%近く上回った。洗濯機や冷蔵庫などの生活家電は、高機能製品が下支えして前年実績を確保したとみられる。 (見通し)・県内の家電販売額は前年をやや上回る見通し。薄型テレビの販売額は4Kテレビの需要拡大が見込まれ、前年をやや上回る見込み。パソコンはスマートフォンなどによる需要侵食で低迷が続くとみられるが、冷蔵庫や洗濯機は一定の買い替え需要が見込まれ、前年実績を確保する見通し。

業種	業界天気	トラック輸送量は横ばい、倉庫は前年水準を確保
運輸・倉庫	  	(現 況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や食料品が堅調に推移し、前年並みの水準は確保した模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の紙・パルプ、飲料、電気機械などの荷動きが堅調だったことから、前年並みの水準となったとみられる。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、業種によってばらつきがあるものの、総じて前年比横ばいで推移する見通し。燃料価格は上昇傾向が続くとみられ、ドライバー確保にも苦戦を見込む。倉庫の入出庫高については、ウエートの高い飲料や電気機械の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移し、前年水準をやや上回る見通し
情報サービス	  	(現 況)・全国の売上高は、主力のソフト開発が好調に推移し、前年をやや上回った模様。県内も首都圏からの受託案件が堅調に推移したほか、小売業や製造業における案件が増加し、前年をやや上回ったとみられる。 (見通し)・全国の売上高は、引き続き主力のソフト開発が堅調に推移するとみられ、前年をやや上回る見通し。県内も、首都圏からの案件を見込んでおり、前年水準を上回るとみられる。ただし、SEが不足しており、案件があっても受けられないケースが懸念される。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	県西部でランチ需要が伸びるが、光熱費負担は増加
外食	  	(現 況)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。天候に恵まれたことに加え、浜松市での大河ドラマ館オープンや、静岡市の「駿河東海道おんぱく」があり、ランチ需要が伸びた。 (見通し)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。大きな変化を及ぼす材料は見当たらないが、大河ドラマの効果は続くと見られ、西部地区のランチ需要は上積みが見込めそう。しかし、電気料金やガス料金の値上げが発表されており、光熱費負担は高まることが確実。

業種	業界天気	県外の新テーマパークに押されて苦戦か
観光・レジャー	  	(現 況)・伊豆地区主要旅館の総売上高は、前年並みにとどまった模様。三島スカイウォークによる宿泊需要の伸張は一巡した。数字的には横ばいだが、宿泊施設の改装などの特殊要因も含まれており、地域として集客力の力強さに欠ける。 (見通し)・伊豆地区主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見通し。県内に新しいコンテンツが少ない一方で、中京圏ではブロックのテーマパークが話題になっているほか、東京でも銀座に話題の商業施設が2つオープンするなど、旅行需要自体が県外に流れるとみられる。

業種	業界天気	海外は持ち直しの動きがあるも、新規案件は減少続く
リース	  	(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みにとどまった模様。海外での設備投資は新興国を中心に持ち直しの動きがみられた。一方、国内は先行き不透明感から投資マインドが低調で新規案件が減少傾向にあったが、前年実績を確保した。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年並みとなる見通し。海外での設備投資は持ち直しの動きが続くとみられるが、国内は先行き不透明感の強まりから企業の投資マインドは慎重。新規案件の減少が続くとみられるが、大企業の設備更新需要は底堅く、全体としては前年並みとなる見通し。

業種	業界天気	需給のひっ迫した状況が続く、時給上昇へ
人材派遣	  	(現 況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3～5%程度上回った模様。販売業務や事務系業務、製造業務など幅広い分野で需要が旺盛な状況が続いたが、供給側の人手不足は変わらず、需要ほどは伸びなかったとみられる。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。製造業を中心に人手不足感が高まっており、今後も高い需要が見込まれるが、供給側の人手不足は解消せず、前年をやや上回る水準にとどまる見通し。時給の上昇はこれまで小幅にとどまっていたが、今後は徐々に拡大する模様。

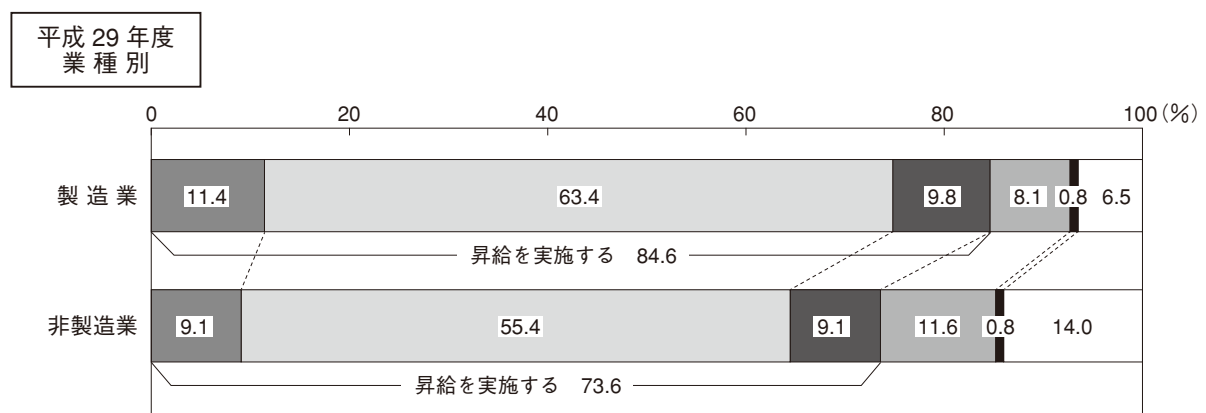
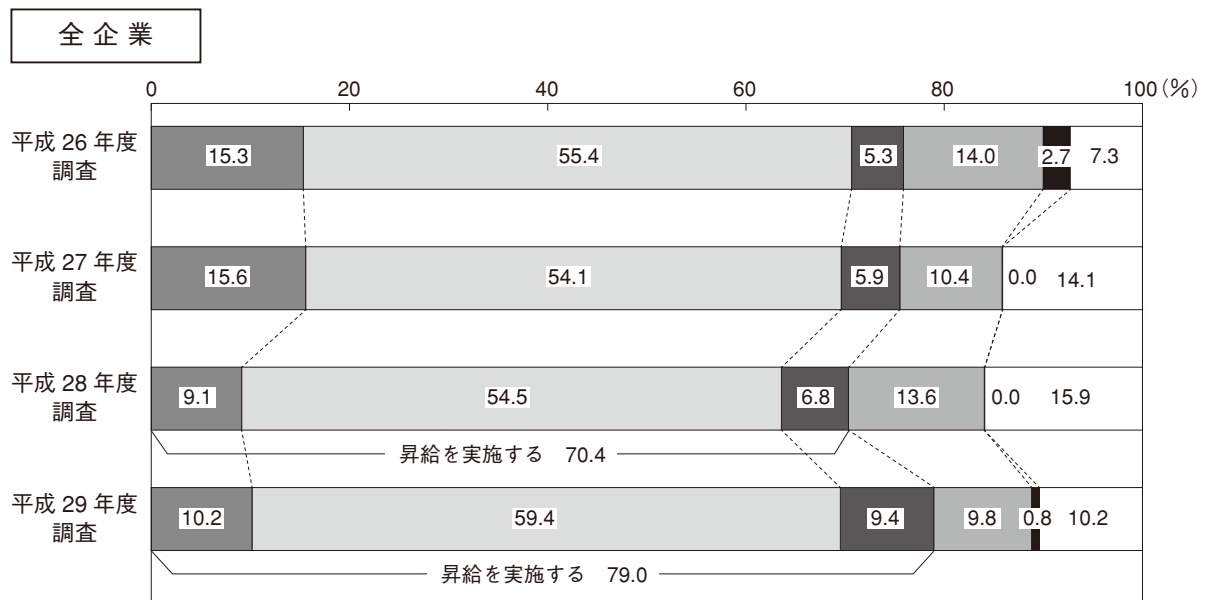
 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

昇給を実施する企業は前年比＋8.6ポイント上昇

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」「昨年並みの昇給」「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は79.0%で前回調査（70.4%）から＋8.6ポイント上昇した（図表）。ここ4年間で最高だった平成26年度調査（76.0%）を上回り、賃上げの機運が大きく高まってきている。

業種別では、昇給実施企業の割合は製造業84.6%、非製造業73.6%となった。製造業は、業績の堅調な輸送用機器や電機機械器具を中心に、人手不足を背景とした人材の定着や人材確保を図る動きなどから、前回調査（67.7%）から＋16.9ポイント上昇し8割を超える企業が昇給実施予定。一方、非製造業は、建設や運輸など人手不足の業種はあるものの、ホテル・旅館や卸・小売など収益的に厳しい業種もあり、前回調査（73.8%）とほぼ横ばい。

図表 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



■ 昨年より高い昇給 □ 昨年並みの昇給 ■ 昨年より低い昇給 ■ 昇給見送り ■ 賃下げを検討 □ 未定

調査要領：調査時点平成29年3月、調査対象企業数621社、回答社数244社、有効回答率39.3%